

全都連絡会ファックス通信 68号

5月23日(日)<10時~16時>は 全都連絡会のステップアップ集会ご参加下さい
午前：平塚眞樹さんの講演(公教育と地域の関わり方) 午後：取り組みの交流
会場：豊島区生活産業プラザ[池袋駅東口下車・豊島公会堂の隣・豊島区民センターの裏]

国連・子どもの権利委員会の子どもたちによるプレゼンテーション[04年1月27日]で、定時制を守る生徒の会Mさんの「定時制をなくさないでほしい。もっと充実させてほしい」と訴えました！ <発言を紹介します>

私は、定時制を守る生徒の会の代表の、Mです。

私たちの会は、東京都が今進めている定時制高校の大規模な統廃合に反対する活動をしています。私たちがなぜこのような運動をしているかというと、定時制高校は学校や社会の中で傷つき、問題を抱えた子どもたちの最後の受け皿になっていると思うからです。

私自身、小学校の時にいじめを受け、その事を誰にも相談できませんでした。学校の中では他人に自分の弱みを見せては生きていけないからです。弱さを隠し、先生にも親にも相談できないまま、とうとう学校に行くことが出来なくなりました。12歳から16歳までの4年間、不登校でした。

しかし、徐々にこのままではいけないと思うようになり、学校へ行く決心をして、定時制高校を選びました。1クラス30人以下の少人数学級、校則も厳しくない。そういうゆったりとした環境なら、傷ついて人と関わることが怖くなった私でも、生きていけると思ったからです。

久しぶりの学校生活で、はじめは不安だらけでした。しかし、そんな私を、定時制はしっかりと受け止めてくれました。先生たちは私の悩みをじっくり聞いてくれました。放課後も職員室に居残ってずっとしゃべっていて、帰る時間がすっかり遅くなってしまうこともよくありました。職員室には居間のような暖かさがありました。こうしたふれあいを通じて、私は人と関わる勇気を取り戻していきました。人と顔を合わせることにさえ恐怖をかんじていて、いつもうつむいてた私が、友達と話し、笑いあえるようになっていたのです。

充実の4年間はあっという間に過ぎ、去年の春、2歳の高校生として卒業式を迎えました。私は、小学校、中学校とも、卒業式には出ていません。しかし、高校に入り初めて卒業式に出たいと思いました。今まで一緒に過ごしてきた友達や先生たちと共に卒業を祝いたいと思ったからです。だから私の定時制高校は、母校と呼べる初めての学校なのです。

私にとって定時制高校は、大切な友達や先生方に会った、かけがえのない場所です。しかし今、この場所が統廃合によって奪われようとしているのです。これを黙って許すことはできません。定時制をなくさないでほしい。むしろ、もっと充実させてほしい。これが私の願いです。

(『DCI NEWS LETTER』N0.64=65・DCI日本支部発行 より)

【編集子・追記】 日本の子どもたちによるプレゼンテーションの翌日、1月28日に、国連・子どもの権利委員会による日本政府への審査が行われました。傍聴された方によると、委員から、政府代表に対して、「定時制高校がなぜ閉鎖されるのか？たとえ人数が多くなっても、不登校などの子どもに2度目のチャンスを与えることができるのだから」などの追求があったそうです。そして、子どもの権利委員会の「最終所見」(1月30日)において、「**定時制高校の統廃合を再考し、従来の(競争主義的なそれ)とは異なる形態の教育(alternative forms of education)を拡大するよう東京都の関係当局に働きかけること。**」(『DCI NEWS LETTER』N0.64=65より・現在公表されている「未編集判」に基づいた福田雅章・林量樹・世取山洋介各氏の2月16日現在の仮訳・「最終所見」技術的な修正が加えられることが予定されています)と、都の施策が名指で「再考」が求められました。

なお、Mさんは、プレゼンテーションをした感想として「すぐに何かが変わるわけでもないと思います。しかし、少しずつでもこういう活動を通して、日本や世界を子どもたちにとってもっと生きやすい世界にしていけることができると、私は思っています」と、述べていました。(『DCI NEWS LETTER』N0.64=65・DCI日本支部発行より)